2009年度第1回国際標準化対応支援委員会／運営委員会国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC3D関係＞国際会議報告書
1-3／SC3D-①	SC3D「電子部品のデータ要素」オランダ／アイントホーヘン国際会議出席報告書 20090216-20090219
資料 No.	＜SC47E関係＞国際会議報告書
1-3／SC47E-①	SC47E/WG3「個別半導体デバイス／パワーデバイス」ドイツ／ニュルンベルク国際会議出席報告書 20090216-20090218
資料 No.	＜SC62A関係＞国際会議報告書
1-3／SC62A-①	SC62A/MT23「EMC」ドイツ／シュトラスキルヘン国際会議出席報告書 20090323-20090327
資料 No.	＜SC62D関係＞国際会議報告書
1-3／SC62D-①	SC62D/JWG7「医用電子機器/非観血血圧計」スロベニア／リューブリアンナ国際会議出席報告書 20090309-20090311
1-3／SC62D-②	SC62D/JWG10「医用電子機器/小口径コネクタ」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20090216-20090220
1-3／SC62D-③	前回担当者不在の為再申請：SC62D/JWG1「医用電子機器/集中治療用人工呼吸器」京都会議日本開催報告書 20090126-20090130
1-3／SC62D-④	前回担当者不在の為再申請：SC62D/JWG1「医用電子機器/集中治療用人工呼吸器」京都会議経費収支報告書 20090126-20090130
1-3／SC62D-⑤	前回担当者不在の為再申請:SC62D/MT18「治療機器」英国／ロンドン国際会議出席報告書 20081212
資料 No.	＜TC93関係＞国際会議申請書
1-3／TC93-①	TC93/WG2「デザインオートメーション／ハードウェア設計記述言語」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20090225
資料 No.	＜TC100関係＞国際会議申請書
1-3／TC100-①	TC100「AV マルチメディアシステム及び機器」フランス／パリ国際会議出席報告書 20090316-20090317
資料 No.	＜TC100関係＞国際会議報告書
1-3／TC100TA8-①	TC100/TA8、ITU-T SG16、IEC/TC100/TA8 Joint Project Meeting「マルチメディアホームサーバ」韓国／城南国際会議出席報告書 20090413-20090417
資料 No.	＜CISPR関係＞国際会議報告書
1-3／CISPR-①	CISPR I/WG2「マルチメディア機器等に関する EMC」オーストラリア／シドニー国際会議出席報告書 20090216-20090217

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC3D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 3 月 31 日

（報告者記載）予算番号：H20SC3D③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野典子　報告書作成者氏名：南野典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC3D（半角）
SC3D/WG2 SC65E/WG2 JWG	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称（日本語）	電子部品のデータ要素
	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 2 月 16 日 ～ 2009 年 2 月 19 日		
開催場所	（国名）オランダ	（都市名）アイントホーヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Reinhard Nerke(独)	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日、独、蘭、IEC 中央事務局、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ジョンマッキン（コムテク）、○南野典子（東芝）、村山廣（東芝）、石川淳（JEITA）、川端静（NEC エレクトロニクス）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

一日目には、欧州最大の民間 e-commerce コンソーシアム eCl@ss と JEITA/EC センターとの合同会議が行われた。電子部品, 半導体、液晶ディスプレイなどを対象とする ECALS 辞書は、IEC SC3D が開発・メンテナンスを行っている電気電子分野の製品辞書 IEC CDD（IEC Component Data Dictionary）と相互参照を行うなど、積極的にハーモナイゼーションを行ってきた。eCl@ss は欧州を中心に様々な分野の辞書の有料配信を行っているが、ECALS 辞書との相互利用、一部辞書の IEC 規格化を目指している。辞書ハーモナイゼーションについて意見交換を行ない、協力していくことで合意した。

SC3D/WG2 での今回の主な議題は、IEC CDD の閲覧・検索・メンテナンスのための Web 上のシステム Version2 が開発中であることから、IEC CO IT 部門の Alan Maislisch 氏が 2 日目に出席し、デモを交えて IEC CDD システム Version2 についての説明を行った。デモの後、SC3D メンバーからの質問や要望が出された。特に Excel による入出力機能については、形式に制約が多く、日本から提案を行っているスプレッドシートによるデータ交換形式との互換性を保持するように要求を行った。今後のスケジュールについては、3 月から SC65E サンプルデータの投入を開始し、7 月ごろにはシステムの公開が行われるとのことである。

また、前述、日本から提案を行っている ISO/IEC 共通データモデルデータのスプレッドシートによるデータ交換形式「Standardized partitive ontology representation and transfer by spreadsheets」（仮名）については WD をオランダで回覧し、正式な NP/WD を一ヶ月以内にプロジェクトリーダの村山氏が提出することが確認された。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC47E-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 3 月 16 日

（報告者記載）予算番号：H20SC47E②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井一史　報告書作成者氏名：古賀健司　（会社名）(株)日立製作所

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E (半角)
SC47E/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	個別半導体デバイス
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 2 月 16 日 ～ 2009 年 2 月 18 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ニュルンベルク	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	古賀健司(ｺﾝﾍﾞﾅ)	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 日本、英国、ドイツ、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古賀健司(日立製作所)、○宮下秀仁(富士電機デバイステクノロジー)、○樋口泰之(ローム)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

(1)SC47E/WG3 担当の IEC 60747-7Ed.3,-8Ed.3,-15Ed.2 それぞれの CDV(47E/364,365,366/CDV；いづれも 2008.5.16 発行)に対する各国コメント(2008.10.17 締切)の審議を行った。
各国コメント数は-7,-8,-15 それぞれ 174 件,30 件,129 件と多く 3 日間掛けて全て審議終了した。
この審議結果を元に"Observations of the secretariat"(案)を作成し Kim 幹事に送付する(3 月中旬予定)。
なお、文書中の回路図記号につき TC3 国内委員会からのコメントを日本コメントとして出したが、図記号に関しては完全に修正しきれないので、最後の段階で CO でチェックして貰おうということになった。

(2)次の Work として既発行文書(60747-2; 整流ダイオード、60747-3; 信号用ダイオード、60747-6; サイリスタ、60747-9; IGBT)のメンテナンスがあるが、実際に変更する必要があるか、その意見を聞く方法を Kim 幹事に問い合せることにした。

(3)東京会議で意見があった、"Module"を SC47E/WG3 で取り扱えるように ”Task"の文を変更する件に関しては、たとえ他に取り扱う WG が無くとも ” Task"文は変更すべきでなく、将来議論したいとの意見であった。

(4)次回会議：2010 年 3 月ニュルンベルク予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 4 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62A 予算無②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：冨沢　修幸　（会社名）パナソニック四国エレクトロニクス(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/MT23	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	医用電気機器共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2009 年 3 月 23 日 ～ 2009 年 3 月 27 日	
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）Strasskirchen
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jim Conrad 氏、Jeffrey Silberberg 氏	幹事国　アメリカ
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、フランス、イギリス、中国、日本　、参加人数（13）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 冨沢 修幸（パナソニック四国エレクトロニクス(株)）	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]2009 年 4 月の 1CD 及び NWIP を提出に向けた、IEC 6XXXX(IEC 60601-1-2 第 4 版からブリッジする、性能面と安全面の EMC 規格を結合した規格)の WD の審議。

[審議結果]IEC 6XXXX のほぼ全章について審議。日本から下記についてコメント・提案(主要事項のみ記載)。

・リスクマネジメント章に東京会議で日本委員会から提案したリスクマネジメントプロセスの EMC への適用を明確にするフローチャートを追加するよう再度提案。→(MT23)WD に採用せず。

・本規格の各所で引用されている RTCA DO-160、MIL、AAMI 規格は国際規格ではないため、国際規格である本規格に使用するべきではないことを再度提案。→(MT23)WD に採用せず。

・performance と ESSENTIAL PERFORMANCE を区別するため performance の定義を明確にすると共に、両者の関係を明示することを提案。

(MT23 回答)IEC 60601-1、IEC 60601-1-2、6XXXX の安全面と性能面の関係図を示し、performance と ESSENTIAL PERFORMANCE は区別されていると主張し、採用せず。

・上記関係図の中で将来 IEC 60601-1 から直接 6XXXX の安全面を引用することが示された点について下記確認。

a)IEC 60601-1-2 を引用している個別規格も、直接 6XXXX の安全面を引用するのか？→　YES

b)この構想は、今回の NWIP に含むのか？→　No、将来の NWIP に含む。

・近傍電磁界試験においてアンテナの寸法、形状などの詳細設計仕様を明示すべきとの提案。

(MT23 回答)今回規格に記述したアンテナは某カーメーカによるもので開示できず、この章では特性のみ指定。

・患者ケーブルからの伝導エミッションのリミット値は実際に ECG と超音波診断装置を患者に装着した際、超音波診断装置の患者ケーブルに電流クランプを挿入し測定した値であるとの説明に対してその妥当性を示すためにもその結果を公開し、レビューの提案。→MT23 提案者、了解。

・電気メスからのノイズ試験は、試験に使用する電気メスが指定されていないため、メーカが異なる電気メスから発生するノイズレベルには差異があり試験の再現性が低いため Informative Annex とするよう提案。

(MT23)電気メスの機種を記述することとなっており、また、必要ならばリスクマネジメントで試験の必要性を決定するべきであるとの理由により採用せず。

→日本委員会は前述の理由で Normative Annex には同意できず、今後も Informative を主張することを強調。

[今後の対応] MT23 は本会議で審議した WD を NWIP/1CD として提出予定。今後、日本提案はその Comment period(2009 年 6 月～8 月)に正式 Comment として提出することとなる。

[今後の日程] 冒頭、規格開発スケジュールが確認され、2009 年 4 月の 1CD および NWIP の提出は 5 月に延期、以降の日程も 1 ヶ月遅延、2CD:2009 年 12 月、1CDV:2010 年 9 月、FDIS:2011 年 8 月、IS:2011 年 12 月の予定。

[次回会議] 1CD に対する Comment period 後の 2009 年 10 月 5 日～9 日アメリカ・マサチューセッツ州アンドーバ。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62D-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 3 月 25 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62D⑮

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：兵後　充史　（会社名）日本光電工業(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/JWG7 (半角)
SC62D/JWG7	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	自動式非観血血圧計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2009 年 3 月 9 日 ～ 2009 年 3 月 11 日		
開催場所	（国名）スロベニア	（都市名）リューブリアナ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. S. Mieke	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、オーストリア、スロベニア、日本、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 白崎 修(オムロンヘルスケア)、久代 登志男(日本大学)、尾田 欣士(パナソニック電工)、○兵後 充史(日本光電)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

JWG7 では、(1)ISO IEC 80601-2-30：自動血圧計の安全・基本性能規格、(2)ISO IEC 81060-2：:自動血圧計の臨床評価基準規格の制定作業を進めている。

今回の会議では、IEC80601-2-30 については amendment、ISO81060-2 については DIS2 のための審議が行われた。

[amendment/DIS2 作成の背景]

(1)安全規格 IEC 80601-2-30 は、前回会議（'08/03 台北）で CDV2 を発行することで合意していたが、上部組織に CDV2 の発行が認められず、FDIS に進んだ。この FDIS が昨年 11 月に承認され、'09/01 に正式発行された。

(2)臨床規格 ISO 81060-2 は、昨年 11 月に DIS の国際投票がされた。本来ならば、FDIS の発行/投票を経て正式発行されるものであるが、規格の発行を遅らせたくないという上部組織の意向で、FDIS を省略する動きがあった。

－JWG7 の議長(Dr.Mieke 独)をはじめ、ドイツ、UK、日本の委員は、両規格とも審議が不充分と考えており、このまま正式発行するという上部組織の意向に反対してきたが、受け入れられなかった。このため、安全規格に対しては早急な amendment、臨床規格に対しては DIS2 を準備/発行することが議長より提案され、決定された。

[成果]

(1)安全規格 IEC80601-2-30：CDV/FDIS に対して出された各国コメントのうち、正式発行時に受け入れられなかったコメントについて審議し、amendment 案をまとめた。特に日本が強く反対していたシミュレータによる基本性能試験について、(a)シミュレータの再現性を担保する方法を追加記載。(b)複数の供試器で平行して規格試験実施することを許容する表現に修正。(c)シミュレータの再現性データが示されるとともに、規格値を 3mmHg 未満から 5mmHg 以下に緩和。(e)破壊を伴う試験はシミュレータ試験の間の試験からは除外。との結論に至った。

(2)臨床規格 ISO 81060-2：CDV/DIS に対して出された各国コメントのうち、事務局に受け入れられなかったコメント、および、新規提案事項について審議し、DIS2 案をまとめた。

－タンパ会議で議論した、観血血圧基準の Band 法について再議論があったが、今回はこのままという結論になった。

－評価時に基準値測定に使用した血圧計/カフについて、臨床評価報告書に記載することを明記すべきとの提案に対し、ISO14155(医療機器の臨床試験規格)の適用を明記することとなった。

－DIS2 の発行について、議長が上部組織に提案/交渉する。(DIS2 発行が最終的に決まっているわけではない)

[今後の JWG７開催予定]　'09 年 12 月 7～9 日　場所：パリ／フランス

－但し、両規格の amendment/DIS2 が発行され、投票で 100%承認された場合は開催しない。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62D-②（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 4 月 3 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62D⑬

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：内藤正章　（会社名）日本光電工業㈱

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	SC62D（半角）
SC62D/JWG10	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	医用電子機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2009 年 2 月 16 日 ～ 2009 年 2 月 20 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. Colburn(FDA)	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 米国、英国、フランス、ドイツ、日本、参加人数（32）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤正章(日本光電)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景・目的：

ルアーコネクターの誤接続での死亡事故への対応ということで関心が高い。この規格は、医療の 6 つの分野で異なるコネクターを決め誤接続を防ごうというものである。心血管系は従来どおりのルアーコネクターとし、そのほかの 5 つの分野に新たなコネクターを定める。したがって、最終的に次のような規格構成となる予定である。

①パート 1：一般要求事項 ISO 80369-1
②パート 2：呼吸システム・駆動ガス ISO 80369-2
③パート 3：栄養系 ISO 80369-3
④パート 4：尿道・泌尿器 ISO 80369-4
⑤パート 5：四肢カフ・インフレーション ISO 80369-5
⑥パート 6：麻酔系 ISO 80369-6
⑦心血管系：従来からある ISO 594-1/ISO 594-2

成果：この会議では、パート１： 一般要求事項の細部の検討を行った。特に非互換性の試験方法の具体案の検討を行った。前回の案から大幅に書き直され、規格としての体裁は整ってきたが、まだ多くの問題は残されている。主査の Dr. Colburn(FDA) は年末までに、技術委員会案として各国の投票を求めたい意向であるが、もう少し遅れる可能性もある。

パート２についても、適用範囲が呼吸系に絞るということで意見がまとまり、具体的な要求事項、試験方法の案を検討した。

パート３及びパート５についても、規格の全体像が検討がされた。今後さらに議論され、新作業項目として提案されることになる。

問題点：パート１については、リスクマネジメントの記述に関してＦＤＡの宿題となっていたがペンディングとなっている。パート２では、新たに２個のコネクターが提案されているが、この設計のバリデーションをどうするか？大きな課題が残されている。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62D-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 2 月 2 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62D⑨

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：中谷 敬　（会社名）日本光電工業株式会社

出席会議名（半角） SC62D/JWG1	区　分 ☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名称（日本語）	SC62D（半角） 医用電子機器 ☒単独開催 ☐同時開催
開催期日	2009 年 1 月 26 日 ～ 2009 年 1 月 30 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）京都	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	John Hedley-Whyte	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、オーストラリア、スウェーデン、日本（オブザーバを含む）、参加人数（25）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○ 中谷 敬（日本光電工業）、真柄 睦（日本光電工業）、他に医療従事者など 3 名		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：集中治療用人工呼吸器の国際規格 ISO/IEC 80601-2-12（安全通則 IEC 60601-1 の個別規格）の制定作業が進んでいる。これは、現行規格 IEC 60601-2-12 を、安全通則第 3 版に基づいて編集上の改訂を行う他、人工呼吸器に関する技術進歩に対応して必要な要求事項も追加、修正するものである。本規格は、IEC/SC62D と ISO/TC121/SC3（人工呼吸器、麻酔器に対する国際規格の制定・改定を担当）の共同作業で制定が進められている。

目的：今回の会議では、CD2 に対する各国コメントについて討議し、Committee Draft for Vote(CDV)案を作成した。Editorial なコメントについては、secreteray による回答案が示されていたため、Technical なコメントに絞って討議が行われた。

成果：ドラフトでは、様々な換気モード（pressure-control、volume-control、pressure-supprt）での制御精度に対する要求事項とその試験方法が追加された。また、人工呼吸中のモニタリング（呼吸流量、換気量、気道内圧、さらに外部接続の CO2 モニタ）に対する規定も加わった。そして、これらに対するアラームも、副通則 IEC 6001-1-8 を基に細かに規定された。制御精度とアラームは、essential performance として規定された。また、今回は人工呼吸器の外部制御、モニタリングの表示などについて細かな議論がなされたが、様々な意見が出され、完全な合意に至らないものもあった。

今回の討議内容を反映して、数ヵ月後に CDV が発行される予定である。次回国際会議は、CDV に対する投票を経た後、2010 年 1 月アメリカ Cambridge の ISO/TC121/SC3 会議と併催される可能性が高い

問題点：各換気モードでの試験法、外部制御での人工呼吸器の一時停止などについては、十分な議論ができず、メーカ側は CD3 を発行してさらに討議することを要求した。しかし、制定スケジュールの関係で CDV 発行が決定され、残りは wrting group の作業に委ねることとなった。日本には人工呼吸器製造メーカは少ないが、輸入に対してもこの規格が薬事法の承認基準として引用されることになる。今後の制定内容を見守る必要がある。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

㈳ 電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62D-④（事務局記入）

様式 9

国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2009 年 2 月 2 日
予算番号：	H20SC62D⑨

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番 号　TC62&SC6D
　　名 称（日本語）　医用電子機器

2. 会　議　名：　SC62D/JWG1（☒単独開催 ☐同時開催）
　　☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他

3. 開 催 期 日：　2009 年 1 月 26 日 ～ 2009 年 1 月 30 日

4. 開 催 場 所：　京都市、メルパルク京都

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	302,910 円	会議室使用料金	194,250 円
ME標準化委員会	454,336 円	会場設営費	65,940 円
	円	飲物代	126,300 円
	円	昼食代	130,660 円
	円	懇親会費(同行 spouse 参加)	240,000 円
	円	雑費	126 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	757,276 円	合計（b）	757,276 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー5 人＋外国人 15 人）］×会議開催日数 5 日×1.5 万円＝150 万 円

補助請求金額　302,910 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2009 年 2 月 2 日

申請責任者：　中谷 敬

※本報告書は、**（様式4）「国際会議報告書」**に添付して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／SC62D-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 2 月 6 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62D②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：岸本　眞治　（会社名）kk 日立メディコ

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	SC62D（半角）
SC62D/MT18	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	治療機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 12 月 12 日 ～ 2008 年 12 月 12 日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Kok-Swang TAN	幹事国　カナダ	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 英、独、仏、蘭、イスラエル、日 、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○岸本眞治(日立)、		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景]　HITU（収束強力超音波治療機器）の個別安全規格案は日本とオランダ共同で 2008 年 6 月に 62D/692/NP をサーキュレートし、10 月に賛成多数で IEC60601-2-62 Ed.1.0 として審議開始した。　26 ヶ国中賛成 20、棄権 6、反対 0 であった。しかし“中国規格を流用した HITU 個別安全規格”を提案予定であったグループが、一転して本 NP に同意し審議参画したので、今後内容に変更や追加を求めて来るものと推定。　一方、独、英、ノルウエイ、ブラジル、は国内で意見分裂し棄権しており、今後該国の理解を得るため積極的に意見交換を進めねばならない。

[目的]　今回は NP 投票に対する各国コメント審議が中心であり、イスラエルとフランスが自社製品を意識した修正要求を多数提出しており、日本が不利にならぬ様に審議を誘導することが肝要。　他方、本安全規格に引用する IEC 62555 [HIFU 治療機器のパワー測定規格]（NPL の Adam Show 提案。TC87/WG6 で審議中）に関し、以下 3 件のオーバーヘッド記述を調整し、本 IEC60601-2-62 に移管する事も目的とした。

(1). 生体内部の温度を測定する手法
(2). HIFU による温度上昇パラメータ:HIFU-TI の算出式
(3). ハイドロホン、天秤法、カロリメトリ法の三種の音場測定手法

[成果]　概ね NP 原案に同意を得ているが、HIFU-MI/TI の算出手法を移管しアネックスに記載する案は、イスラエルとフランスの強固な反対で継続検討事項になってしまった。　移さない事に決まった場合は、速やかに IEC62555 で成立させて引用規格とせねばならない。　IEC 62555 は 2008 年 6 月の TC87/WG プラハ会議で概ねの方針を把握し、日本は策定に積極的に参画する事を宣言した。　さらに、9 月の IEC/TC87-WG6 ミネアポリス（米国）会議での審議に協力し、NPL 開発のファントムを使ったキャリブレーション法　（　ひまし油を封入し温度上昇を測定するカロリメトリ法のファントム）　を付属文書に組み入れる事とした。

[問題点]　(1).は TNO の技術レポートを IEC 化する方針、(2).は日本と TNO で NPL との打合せが必要。
(3).は、何れも開発中の技術であり、それぞれを精査し信頼性の検討が重要。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 4月 3日

（報告者記載）予算番号：H20T93④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：山本 一郎　報告書作成者氏名：小島 智　（会社名）NECシステムテクノロジー㈱

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC93（半角）
TC93/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	デザインオートメーション
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 2 月 25 日 ～ 2009 年 2 月 25 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サンホゼ市（カリフォルニア州）	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺｺﾝﾍﾞﾅ：小島 智	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 米国、日本、参加人数（2）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小島智（NECシステムテクノロジー）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。

<目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE ダブルロゴ標準手順の定着迅速化、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。

<成果>TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会と緊密な連携し活動展開している。特に WG2 国内活動は、JEITA EDA 技術特別委員会を中心に、小島が WG2 コ・コンビナとして国際標準化活動を推進すると同時に日本の意見反映をしている。

国際学会 DVCon2009 に併設し WG2 会議を開催し、米国 WG2 コ・コンビナーの Brophy 氏と 2008 年シンガポール会議で検討した新規規格およびメンテナンス規格の２００９年度計画を再確認し、進捗状況をアップデートした。IEEE とのデュアルロゴ規格は、IEEE 規格後速やかに IEC 標準化プロセス(Fast Track)に入る。また、デュアルロゴ規格以外で GEIA 提案の IBIS メンテナンスがあり、Victor Berman 幹事が GEIA 側と今後の進め方を調整している。

新規規格：

- IEEE1801-2009(Power Format)は、３月に IEEE 規格化見通し、IEC61523-4 を予定。Convener の立場では、デュアルロゴのプロセスを進めるが、JPNC(JEITA EDA-TC)の立場では、投票の態度について議論を要する。

メンテナンス規格：

- IEEE1076-2008 は、IEC61691-1-2 を予定。また、IEEE1076 の従属規格（1076.2、1076.3、1076.4 及び 1164）は、IEEE1076-2008 に統合されため、IEC での取り扱いを協議する。
- IEEE1800-2009(SystemVerilog と VerilogHDL 統合)は、IEC61691-6-2 を予定。IEEE 規格化は 2009 年前半に成立の見通し。統合により、VerilogHDL(IEEE1364-2005、IEC61691-4-1)の取り扱いも協議する。
- IEEE1481-1999(DPC)は、IEC61523-1-2 を予定。
- IBIS4.2 は、規格メンテナンス提案の日程を確認し、その後進め方を調整する。

次回は、７月にサンフランシスコ開催の国際学会 DAC2009 と併せて WG2 会議を予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC100-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 4 月 09 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100 予算無②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄（ソニー）　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分		
Joint Workshop IEA-ISO-IEC on EE	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC 100（半角）
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	TC 100-JTC 1 Coordination
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 3 月 16 日 ～ 2009 年 3 月 17 日		
開催場所	（国名）フランス共和国	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	IEA/IEC/ISO 共催	幹事国	
参加国及び参加人数	53 ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数（300 人程度）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川秀治(東芝) ○江崎正（ソニー）、その他 17名（名簿ベース）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

IEC では Energy Efficiency (EE)を標準化の立場から推進するために、SMB に SG1 を設置し、TC 100 を含めて幾つかの TC/SC に対して Recommendations を作成している。SG 1 に対応するため、TC 100 では EE Ad-hoc を組織し、Ms. Baron as が Rapporteur 小職は Secretary として活動を開始、SG1 Recommendations への回答案を準備している。

IEA (International Energy Agency)は EE 分野での中心的な国際組織であり、今回は IEA-ISO-IEC が一堂に会し、EE への取組についての Workshop がパリで開催された。OECD 事務局長は経産省出身の田中伸男氏であり、プレゼンにも多くの日本人が登壇した。最初のセッションでは、IEA、ISO、IEC から総括的な説明と、もう少し詳しい活動状況の紹介があり、その後は二つのパラレルセッションとなった。

ITU-T からもプレゼンがあり、インターネットの需要を外挿するとデータセンタだけで、現在の発電量を全て消費するという計算もあること、従って省エネは必須であること等が紹介された。自動車の省エネは、ISO TC 22 以外にも国連内に専門委員会が組織され検討をしていると、委員会副議長のトヨタ自動車の社員からプレゼンがあった。

Workshop で審議された「省エネ用語の統一」は、直ぐに C/1559/DV という投票案件 (ISO/IEC 共同によるエネルギー効率および再生可能エネルギーの国際共通用語に関する新規業務項目提案)に結びついている。

TC 100 国際幹事としては、省エネ関係の測定法を審議中の TC 59、用語を検討している TC 111 関係者とも顔合わせと情報交換ができ、非常に有意義であった。

省エネ分野は、注目度の高い領域であり、前政権では後ろ向きであった米国も多くの政府関係者が今回の会合に参加している。今後も、同様の催しがあった場合には、積極的に参加すべきである。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／TC100TA8-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 4 月 20 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA8③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：TC100/TA8　報告書作成者氏名：木下信幸　（会社名）(株)電通

出席会議名(半角)	区分		
ITU-T SG16 TC100/TA8 ジョイント会合	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA8 (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	マルチメディアホームサーバシステム
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 4 月 13 日 ～ 2009 年 4 月 17 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）京畿道(キョンギド)城南市(ソンナムシ)	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	川森雅之	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、中国、韓国、ブラジル、参加人数（28）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○木下(電通)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景・目的

ITU-T SG13 と IEC TC100/TA8 のジョイント会議としては初めての会議となり、今回、TC100 の概略を説明し、TA8 の活動を紹介、Rights Information Interoperability(RII)に関して議論することが主目的である。

1) ジョイント会合

- IEC TC100 の概略に関して説明した。

- Introduction to IEC TC100 Technical Area 8：TC100 TA8 の活動を報告、IEC62227 と IEC62579 に関して簡単な内容を説明し、RII のベースとなる技術を紹介した。

- Rights Information and Metadata for IPTV ：今回 ITU-T と IEC とのジョイントで検討を進めている Rights Information Interoperability に関して審議を行った。 許諾情報の要件の明確化の必要性を議論し、引き続きこれらに関しての検討を進めることが決まった。

2) その他

- IEC62579 に関して、興味があり内容を確認したいという要望があった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：1-3／CISPR-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 3 月 11 日

（報告者記載）予算番号：H20CISPR④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：玉田正信　報告書作成者氏名：堀 和行　（会社名）ソニー(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	CISPR SC-I（半角）
CISPR_I_WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	マルチメディア機器等に関するEMC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 2 月 16 日 ～ 2009 年 2 月 17 日		
開催場所	（国名）オーストラリア	（都市名）シドニー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Ronald Storrs	幹事国 日本	
参加国及び参加人数	11 ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、オランダ、ドイツ、米国、参加人数（31）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄(NTT アドバンストテクノロジ(株))、秋山 佳春／NTT 環境エネルギー研究所、平澤 徳仁/NTT 環境エネルギー研究所、長部 邦廣／㈱ VLAC、山口 高／VCCI、○千代島 敏夫／㈱ PFU、○堀 和行／ソニー ㈱		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：WG2 はマルチメディア機器のエミッション規格 CISPR 32 を担当している。

目的：2007 年 11 月に回付された CISPR/I/250/NP には、約９００件の各国コメントが集計され、5 月のミラノ会議で審議された。その後 10 月開催の大阪会議審議結果を踏まえ、今回次の CD 案を審議予定であり、JEITA 意見の反映が必要である。

成果：1) 基準測定法についての CISPR 総会(大阪)の決定について、IEC では問題とする意見があり 3 月に会合が開催されて審議されることが SCI 委員長から報告された。

2) 衛星放送受信用室外機の放射測定の原理、および手順の記述が不十分であることが指摘され、CISPR32 とは別の CD 文書を作成し審議することとなった。

3) 通信ポートの妨害波測定の複数の測定法にフロー図で優先順位がつけられていることは、CISPR 総会の決定に違反することが指摘され、新たな優先順位のないフローチャートが提案された。

4) 遮蔽効果の試験方法は、CATV の通常レベルを超えており適切でないことが指摘された、またケーブルやコネクタの影響がＴＶ自体より大きく、検討が必要なことが問題とされ、情報的 Annex に移動し各国に説明を求めることとなった。

5) OATS,SAC での測定距離について、距離の半分に EUT システムの寸法を制限する内容は削除された。

6) Table B4 デジタル放送仕様の例について、NHK からの提案で修正された。

7) 測定距離および EUT バウンダリの定義について合意された。

問題点/今後の予定：以上の結果をふまえ、4 月の編集グループ会議 によって次期 CD 案が作成され、5 月に各国に 3 ヶ月間の審議期間で回付されることとなった。

次回 WG2 は、10 月 19 日の週に WG4 と併催で、米国オレゴン州 Hillsboro 開催予定。Lyon SCI 会議では、CDV 化が審議される予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館） Tel：03-5275-7259 Fax：03-5212-8122